

広報

No.1201

はづかいち

8

August 2015

特集

語り継ぐ

―戦後70年、夏の記憶―

廿日市小学校の校庭に佇む一本の大柳がある。70年前の8月6日、焼け野原になった広島から廿日市に逃れるむごたらしい姿の人の波。廿日市小学校には救護所が設置され、地域住民の手が差し伸べられた。しかし当時は、医療品も治療法もほとんどなく、次々と消えていく命の灯。遺体はこの大柳の下に並べられ、火葬された。当時の救護所を知る森久美さんは、「あのときの光景は、脳裏に焼き付き生涯忘れることはない」と話す。

特集2〜9ページ